

衛星放送ワーキンググループ（第19回） 議事要旨

1. 日時

令和7年12月17日（水）13時00分～13時39分

2. 場所

WEB会議

3. 出席者

（1）構成員

伊東主査、音主査代理、飯塚構成員、内山構成員、大谷構成員、奥構成員、落合構成員、曾我部構成員、長田構成員、林構成員

（2）オブザーバー

一般社団法人衛星放送協会、スカパーJSAT株式会社、一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟、株式会社放送衛星システム、一般社団法人放送サービス高度化推進協会

（3）総務省

豊嶋情報流通行政局長、近藤大臣官房審議官、井田情報流通行政局総務課長、佐伯同局放送政策課長、根本同局放送技術課長、坂入同局放送業務課長、飯村同局放送施設整備促進課長、佐々木同局放送技術課技術企画官、佐々木同局放送業務課企画官、横澤田同局放送業務課配信サービス事業室長、本橋同局放送施設整備促進課企画官

4. 議事要旨

（1）第二次取りまとめ（案）に関する意見募集の結果について

- ・事務局から資料19-1に基づき、説明が行われた。

（2）意見交換

- ・事務局から示された、第二次取りまとめ（案）に関する意見募集の結果及び第二次取りまとめ（案）について、以下のとおり意見交換があった。

【音構成員】

今回の意見募集について、基本的にはこのワーキンググループの取りまとめ（案）についての御賛同の意見がほとんどであったと認識をしています。特にBS4K放送が4Kコンテンツを視聴者に届ける太い幹であるということの認識は、経営環境が厳しい中でも、関わっている方々が基本的には共通の認識を持って受け止められていたのではないかと思います。

先ほど事務局から細かな点について幾つかコメントがありました。今後、厳しい環境の中でこの4Kの太い幹をどのようにして発展させていくのか、御意見もたくさんありましたが、今回のパブリックコメントを拝見して、関係団体と事業者の協力の中で展開することが非常に重要なのだと改めて認識した次第です。

大事なのは、今、目の前にある課題を、インフラコストの問題なども含めて、どのように対応していくかなのではないかと考えています。

【伊東主査】

ありがとうございました。

今回のワーキンググループでは、主に4K衛星放送や4Kコンテンツの流通・展開に特化して御議論をいただいたと思いますが、音先生からさらに次の話にも結びつく御意見をいただきました。

【曾我部構成員】

取りまとめ（案）について、修正なしという御提案に賛同いたします。

その上で、コメントとしまして、やはりBS4K放送自体が曲がり角を迎えているということで、その在り方について考えていく必要があるということと、それとは別に、4Kコンテンツ自体を、BS4K以外の場も含めてどのようにして普及させていくのか、促進していくのかという課題が残ったというのが感想でございますが、取りまとめ（案）に関しては特段異議がありませんのでよろしくお願いいたします。

【大谷構成員】

今回、この取りまとめ（案）について多数の御意見をお寄せいただき、また御意見をいただいたことによってこのワーキンググループの考え方方がより明瞭に伝わるきっかけになったのではないかと思いますので、意見をお寄せくださった各社、個人も含めた皆様に御礼を申し上げたいと思います。

今回の報告書の狙いとしては、特に4Kコンテンツの在り方について述べたものではなく、むしろ4Kの市場ニーズ等について、若干厳しい状況にあることをお伝えするという、現状のピン留めといった意味合いが非常に強かったものだと思います。それだけに、コンテンツを製作されている各局の皆様に向けて、厳しいマーケットニーズの状況を伝えるような言葉が中心になりましたが、各社からコメントいただいておりますように、コンテンツをどのように作り上げていく

か、各社のビジネスモデルは各社で御判断いただくべきものだと私どもとしても受け止めておりますので、もし誤解があつたのであれば誤解ないように理解いただければと思っております。

ただ、やはり世界市場を見ていくと、2Kのみで製作されたコンテンツについての見方というのは、どうしてもニーズが減っていく方向でもあります。そこを真正面から受け止めて、これから事業の御判断の手がかりにしていただければという願いを込めた報告書になっていますので、この内容を共有して、そこを出発点として、今後も、検討の場で引き続き御意見などをいただければと考えている次第です。

私も、この意見募集の結果について、報告書に何か反映や修正を加える必要はないという点について賛同しますので、併せてコメントを申し上げた次第です。

【伊東主査】

まとめていただきましてありがとうございます。

今回のワーキンググループでは、BS4K放送や4Kコンテンツの現状について検討し、今後、BS放送だけではない形で、4Kコンテンツの出口を広げていければ良いのではないかということが我々からの提言としてあり、放送も太い幹ではあるものの、それ以外に配信という手段もあるだろうといった指摘をさせていただいたものと考えています。

【奥構成員】

私も、今回の取りまとめ（案）については、今まで議論を重ねた上での取りまとめであり、パブリックコメントに付した原案と、関係者の皆さんからいただいたパブリックコメントの意見を参考する限り、修正する必要はないだろうと思います。関係者の皆様には、非常に努力いただきありがとうございました。

その上でコメントさせていただきます。BS4K放送が「太い幹」であるというのは非常に正しい見方だと思います。「幹」を「植物」に例えると、植物は水がなければ生きていけないということになると思いますが、これは特に民放ビジネスの場合はで、水とは広告費ということになると思います。

繰り返しになりますが、各社の経営環境が非常に厳しいということについては、数字としてフラクトベースでレポートされています。民放各社はこれを受けて、費用を圧縮することと収入を増やすということの両側面での対応と、そのための施策が至急に必要であるということになります。

費用の圧縮については、インフラコストの低減など様々な議論がこの会議体でも進んでいますし、今後も継続的に進んでいくものと期待します。

一方、収入の増加については、このままの状態ではかなり厳しいということは、それぞれの先生方も指摘されたとおりであり、共通認識ができたと思います。これをそのまま放置しておくのは健全ではなく、財務上も含め、企業経営としても厳しいと思います。

太い幹が放送であるとすれば、配信はそれに近い先々のことですが、やはりあくまでも放送が

現状の収入のど真ん中であるとすれば、特に民放においての今後の事業展開をどう考えるのかということや、それをサポートする放送制度の設計をどのように考えていくのか、ベクトル感がないといけないと思います。

事務局で、来年以降、こうした点についてどのように議論を進めていくのかというアジェンダ設定があれば、伺いたいと思います。

【伊東主査】

ありがとうございました。

今回の取りまとめ（案）については修正の必要はないだろうということでしたが、事務局としては、今後の議論についてどのように考えているのでしょうか。

【佐々木企画官】

事務局でございます。

今後の議論についてですが、現時点ではまだ、今後いつ次のアジェンダについてご議論をいただきたいかという点については、未定でございます。事務局として、しかるべき検討して御相談して参りたいと考えております。

【落合構成員】

取りまとめをいただき、ありがとうございます。

パブリックコメントも含めて、一定の理解が得られるような取りまとめになっているのではないかと思います。

先ほど奥構成員から、今後、どのような形で議論を進めていくのかという御意見もありましたが、今後、どのような形で各社に具体的に取り組んでいただくのかは重要な課題として残るのではないかと思います。

もちろんコストの点などについて、各社、非常に厳しいことはよく分かるところですが、一方で、そうした中で、訴求力のあるコンテンツが作れないということになっていくと、これは放送にしても、配信にしても、長期的に見るとより厳しい状況になってしまいます。このため、どのようにして今後の持続的な事業活動につなげていくか、合理的な費用負担の中でどううまく工夫していくかということを、業界内でも理解を深めて取組が増えていくよう、またそれが広告収入のみならず配信収入なども含めてマネタイズにつながっていくよう後押ししていくのは、極めて重要なのではないかと思います。

最終的には、各社の経営の選択肢を確保するためにしていくものであって、どういう形で4Kも含めて事業展開をしていかれるのかは、各社の御判断ではあるとは思います。一方で、取りまとめ（案）にもありますが、配信プラットフォームの中には4Kでの納品を求めるといったことも増えており、4Kでの製作費も一定程度合理的な価格でアクセスできるようになりつつあるということです。こうした状況の変化も踏まえて、できる限り業界全体として一定の収入が確保

できるような、訴求力があるコンテンツを作っていくように、今後も、この検討会、あるいはそのほかの場で、総務省も含めて後押しをしていく形になるといいのではないかと考えています。

【飯塚構成員】

取りまとめいただき、ありがとうございました。

意見募集を踏まえて、一点コメントをさせていただきます。意見募集を拝見すると、人材育成などへの支援について複数のコメントをいただいていたと思います。個社では対応できない課題に対応するために、事業者横断的に必要となる支援について、特にローカル放送局への支援についてどのような措置が必要になってくるのか、今後、議論を詰めていく必要があるのではないかと思います。引き続き、各社への継続的なヒアリングを行いながら、具体的な施策につなげていく取組が求められるのではないかと思います。

【伊東主査】

ありがとうございました。

今回の取りまとめ（案）への修正の御意見ではないということでよろしいでしょうか。

【飯塚構成員】

はい、今後に向けてのコメントです。よろしくお願ひいたします。

【内山構成員】

ありがとうございます。私も、パブリックコメントの結果を見た上で、取りまとめ（案）の再修正は不要であると考えています。

今回のワーキンググループは、4Kコンテンツの流通をどのように促進、拡大していくかという議論が強くあったと思います。ただ、前回も指摘したと思いますが、コンテンツの4K化は目標ではなく、それはあくまで関係事業者がどれだけコンテンツ戦略に対して熱心に取り組んでいるかということのバロメーターではないかと思っています。そのため、目的と手段を間違えてしまうと、ひっくり返った議論になってしまうのではないかというリスクを感じています。

なぜそれがバロメーターになるのかについては、過去、私が御説明した際に、例えばアメリカのネットワークとしてのメディア収益についてはという形で財務データを出させていただきました。そこに示したとおり、既に海外では一定のコンテンツは4Kで作るのが当たり前であって、それが加点になるとは思えず、逆に4Kで作らないと減点になる状況になっているという流れもあります。

ただ、色々な場面で説明しているとおりで、やはり映像の世界、あるいはテレビの世界も、インターネットのおかげで、結果的にもう電波圏域だけで商売をするのではなくて、世界とつながった状況になっています。いつまでも、日本のガラパゴス的なビジネスモデルのままでいいわけがなく、やはり世界の情勢に対して非常に意識を持つべきだろうと思います。

その辺りは、経営学や生物学で、環境や変化に適応したものだけが生き残るという命題がありますが、まさしくそのとおりで、何もしないまま嵐が通り過ぎるのを待っているということでは立ちいかないだろうと思います。最近の事例で言うならば、ITVとコムキャスト・スカイの合併交渉のように、ITVがもう放送事業者から番組制作会社になっていくという方向性も見えていたりします。そうした意味で、環境や変化に対してしっかりと適応していくかどうかの一種のバロメーターとして、4Kへの対応という数字を見られるのではないかと思います。これからもまた変化の度合いを見ていかなければいけないのではないかと思います。

ただ一方で、今回のワーキンググループでは伝送路としてのBS衛星放送の話をあまりしておりません。そこに明るい未来があるかというと、正直、そうは感じてはいないので、その点については、また違う機会に議論しなければいけないのではないかと思います。

【伊東主査】

ありがとうございます。危機感を持って対応しなければならないという御意見であったかと思います。

【林構成員】

まず、この取りまとめ（案）について、私も特に修正する必要はないと考えております。

今日は一つの節目ですので、私もコメントさせていただきます。このワーキンググループは、衛星放送ワーキンググループでありながら、途中から4Kについて主に議論するワーキンググループになったような感があります。その中では、放送事業者の事業戦略や個社の経営判断に関わるような問題は、あまり踏み込んで議論することのないよう、このワーキンググループとしても、あるいは私自身としても、よく注意して議論されてきたように理解しているつもりです。ただ、パブリックコメントでは、その辺りについて、事業者様から懸念ないしコメントがあったということは、私自身の反省も含めて重く受け止めたいと思っております。

ただ、BS4K放送が経営的にもなかなか厳しくなってきていることについて、ある種の責任を、国や誰かに向けるというような後ろ向きの議論ではなく、BS4Kにしてもその他の一般放送にしても、一般に放送サービスを開始した後は各事業者様の自主的な努力によって優れたコンテンツを放送して収益を上げていくということが、当然、期待されているわけです。そうした中で、総務省においても、放送事業者による4Kコンテンツの製作支援や、視聴者の方々への普及啓発に取り組んできたと思います。

ここからは期待、希望になります。総務省においても、基本的には事業者の経営判断に任せるということになると思いますが、さはさりながら、本取りまとめ（案）を踏まえて、引き続き4Kコンテンツの流通の促進は非常に重要ですので、そこはスタッツすることのないよう、適切に取り組んでいただきたいと思っているところです。

【長田構成員】

今回の取りまとめ（案）について、修正の必要はないということに賛同します。

その上で、パブリックコメントの各社や個人の方からの御意見を見ていると、4K衛星放送が厳しい状況であるということはますます実感をしたわけですが、いずれにしても、私自身、視聴者の1人としては、放送局の皆さん方が制作されるコンテンツに対する期待がとても大きいということは変わってはいないと思います。ただ、それを放送波で受け取るのか、配信で受け取るのかということは区別なく、それぞれの視聴者の暮らしの中で選ばれるものになってきています。色々な環境でよりよいコンテンツをもっと受け取っていきたいという、そういう期待感を持って今回のワーキンググループには参加させていただいたつもりでおりました。

ぜひその力を発揮していただけるように望んでおりますし、そのために何ができるのかということを、総務省も含め、色々な方に考えていただけたらと思っています。

【伊東主査】

本日ご出席の全ての構成員の皆様から御意見を頂戴しました。皆様の御意見の中に、今回の取りまとめ（案）の修正を求めるようなものはありませんでしたので、このワーキンググループの第2次取りまとめにつきましては、本日、事務局から提出された案、資料19-3のとおりとさせていただきたいと思います。

今後、この第2次取りまとめの公表に向けた手続きを行い、その際、若干の修正等が必要になった場合は、主査に御一任いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【伊東主査】

ありがとうございます。それでは、第2次取りまとめの公表に向けて進めさせていただきます。

今回の取りまとめ（案）に対する意見募集の結果について、敬称は省略させていただきますが、日本ケーブルテレビ連盟、衛星放送協会、NHK、JCOM株式会社、SCサテライト放送株式会社などからは4K放送や4K配信、あるいは4Kコンテンツ製作については今後も積極的に推進、あるいは関わっていくという旨の御意見を頂戴し、大変心強く存じます。一方、日本民間放送連盟、在京キー局やその傘下の衛星放送事業者からは、4Kコンテンツの製作や流通については、それぞれの放送事業者の経営判断に基づき、適宜、適切に進めていきたい旨の意見表明があったと存じます。

組織によって温度差はあるものの、4Kコンテンツの意義や価値についてはいずれも認識されていると存じますので、今後はその製作や放送、配信等による流通がさらに進展していくよう、主管庁にはより一層の支援を期待したいと存じます。

なお、資料19-1、意見募集の結果の1ページにおいて、NHKからの御意見の末尾に記載されています、衛星放送政策の目指すべき道筋を示してほしいという御趣旨の御要望については、4K映像に特化した今回のワーキンググループの直接的なミッションではありませんが、非常に

大事な点をご指摘いただいたと思います。また、構成員の皆様からも、今後へ向けた検討が必要であろうといった御意見を頂戴したかと存じます。ありがとうございます。

ともあれ、おかげさまで第2次取りまとめを作成することができました。構成員各位の御尽力に改めて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

これで予定していた議事は全て終了いたしました。最後に、事務局から何かあるでしょうか。

【佐々木企画官】

事務局でございます。

伊東先生からも今後に向けた取組について言及いただきましたが、所管する総務省としましても、しっかり取り組んでまいりたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

また、改めまして、今回の衛星放送ワーキンググループに参加いただき、御議論いただきました伊東主査はじめ構成員、オブザーバー、プレゼンター、傍聴の関係者の皆様、7月の再開から半年の間、全7回、精力的にお付き合いをいただきましてありがとうございました。改めまして、引き続き御指導のほど、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

【伊東主査】

それでは、以上をもちまして、デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会、衛星放送ワーキンググループの第19回会合を閉会とさせていただきます。

本日も、御多忙の中、御出席をいただき、御意見等を頂戴いたしましてありがとうございました。今後、またお世話になることもあるかと存じます。その際にはぜひよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。